京交

京都交通労働組合
電話(075)841−0948
発行者　瀬戸高志
編集者　佐田　悟

・・一　面・・
・京都交通労働組合
第85回臨時大会

・・二　面・・
・第22回　都市交
宿泊労働講座＆解散大会

京都交通労働組合　第85回臨時大会

2013.5.8 於 京都テルサ

・・・団結がんばろう・・・

自治労京都府本部
橋元信一執行委員長

北神圭朗
参議院議員選挙予定候補者

準組織内
今枝徳蔵市会議員

質問に立つ九条支部
田中正則代議員

奥　竜彦
大会運営委員長

杉原正人
資格審査委員長

都市交から自治労へ

・・・新たな運動の展開をもとめて、京交運動の更なる飛躍を誓う・・・

京都交通労働組合は、二〇一三年五月八日（水）十八時三〇分から「京都テルサ」において、「第八十五回臨時大会」を開催しました。冒頭、司会の山本保自動車部長から「自治労との産別統合に至るまでは一旦白紙になるなど紆余曲折がありましたが、今日の臨時大会で大きな一歩を踏み出す意義ある大会となるよう、議論していただきたい。」と挨拶に立ち臨時大会の幕が上がりました。続いて、瀬戸執行委員長が「①地方公務員に対する給与引き下げ問題等について②参議院議員選挙の争点について③産別統合について、以上大きく三点に分けて主催者挨拶を述べました。次に臨時大会の仕切り役を務める議長に、電車部駅務支部辻川啓司代議員を選出。また、資格審査委員長に自動車部錦林支部杉原正人代議員、大会運営委員長に電車部烏丸線乗務支部奥竜彦代議員をそれぞれ選出しました。辻川啓司議長は就任にあたり、「都市交から自治労へバトンを引き継ぐ重要な今臨時大会で、議長を務めることを大変誇りに思います。」と挨拶を行い議事進行に入りました。はじめに公私ともに多忙の中、六月に統合する自治労を代表して京都府本部橋元信一執行委員長、そして、今夏の参議院議員選挙の予定候補である北神圭朗氏、最後に、準組織内議員である今枝徳蔵市会議員から臨時大会開催の華向けとしてご祝辞をいただきました。続いて、第一号議案「自治労京都府本部との組織統合について」を伴野敏之書記次長、第二号議案「二〇一二年度予算の更生について」を佐田悟副執行委員長、第三号議案「顧問委嘱に関する件」を伴野敏之書記次長が提案しました。参加した代議員からは、産別統合による組合費の問題等について質問があり、統合後、段階的調整が行われる四年間の中で考えて行くことを答弁し、承認いただきました。議長降壇の挨拶の後、瀬戸高志執行委員長から「今夏の参議院議員選挙は自治労の中で闘うことになるが、『京交ここにあり』という存在を大いに示していこう。」と檄を飛ばし、臨時大会参加者全員による「ガンバロウ三唱」が声高らかに力強く行われ、第八十五回臨時大会を締め括りました。

佐田　悟
副執行委員長

伴野敏之
書記次長

中谷文明
書記長

司会を務めた
山本保自動車部長

議長を務めた
辻川啓司代議員

ご挨拶（要旨）

瀬戸高志執行委員長

京交第八十五回臨時大会の開催にあたりまして執行部を代表し一言ご挨拶申し上げます。日頃は京交運動推進のためにご協力頂いていますこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。また、本日お忙しい中をご来賓として、自治労京都府本部橋元信一執行委員長をはじめ、今夏の参議院議員選挙に出馬予定であります前衆議院議員の北神圭朗さん、そして私ども準組織内議員の今枝徳蔵先生にご臨席賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。さて、民主党は昨年十二月、政権与党の幕を三年三ヶ月という短命で幕を閉じました。代わって自公政権が復活したことにより、マニフェストで約束している公務員の人件費削減問題について厳しい攻勢を掛けてきています。既に国家公務員給与は東日本大震災の復興費用捻出のため、労使合意の下、平均七・八％引き下げていることはご存じだと思います。しかし、今日、地方交付税を担保にしたともとれる手法で私たち地方公務員にも給与引き下げ圧力がかけられています。そもそも、地方自治に対して国・政府が介入してくること自体あり得ないことであり、断固として阻止していかなければなりませんが、オセロゲームのように一つの都市で妥協してしまうと、瞬く間にひっくり返ってしまうことを想定しておかなければなりません。京都市においては、市労連に対してまだ交渉の俎上に上がっていませんが、全国的にみると神戸や北九州、奈良、岡山、長崎と提案されるようなことを聞いています。今後、京都も提案されてくる可能性がゼロとは言えませんが、皆様に協力していただいている署名活動を基に、市労連でも精一杯闘いを進め、京都市人事委員会に申し入れるなど運動強化を図っていきたいと考えています。次に、本日の臨時大会では三点について審議していただくことになります。一つは自治労との統合について、二点目は更生予算について、そして顧問委嘱の件であります。自治労との統合問題については従前から話がありましたが、近年、都市交の仲間が毎年消えていくような中で、公共サービスに働くものが大同団結して自治労の下で各種運動を展開していくことが賢明な判断であるとの認識に立ち、紆余曲折を経て産別統合の日を迎えようとしています。六月一日からは自治労京都府本部京都交通労働組合と冠が変わります。今まで私たちは一産別一単組というなかで運動を進めて参りましたが、今後は三十七単組ある中の一つとして運動することになり正直不安や心配もありますが、今まで以上の皆様方の力をお借りして自治労運動に邁進していきたいと思いますのでご協力をお願いしておきます。

冒頭にも紹介しましたが、今日は北神圭朗前衆議院議員にお越し頂いています。既にご案内のように7月に実施される参議院選挙京都選挙区の予定候補者として、現在、精力的に活動されています。この参議院選挙の争点が報道等でご承知のとおり、憲法改正問題となっています。自民党は憲法改正に必要な要件（二／三以上の議決がなければ変えられない）を付記している第九十六条を変えると言っていますが、様々な考え方があるにせよ、私は一／二に改正する考え方には、政権が代わる度にコロコロと日本国憲法が変わるという危険性をはらんでいることから、現状の制度を踏襲すべきだと考えています。また、その行く先は憲法第九条を見据えていることが間違いないことから、安易に半数で変えて行くのは本当に危険である、と思っています。本当に必要な改憲であれば、国民が政治を動かす力を持ち、政府も、役人も、私たちによって代えることができる民主主義の理念に立ち返り、二／三の議決を経て変えるべきであります。安倍首相の推し進める施策に「待った！」をかける意味でも、今一度、民主党に頑張って頂き、再び北神圭朗さんを国会に送り出すべく団結しなければなりません。

最後に、六月から自治労運動に参画することになります。最初の大仕事が自治労組織内議員であります「あいはらくみこ」参議院議員の再選に向けての取り組みであります。比例区と選挙区の区別をしっかりしていただいて、我々の組織内議員が頑張ってもらうことによって、今の考えられないような国の攻撃を跳ね返していかなければなりません。「北神・あいはら」両氏の当選を勝ち取るべく、自治労に「京交あり」と見せて行きたいと思いますので、今後とも益々のご協力を切にお願い申し上げ、執行部を代表しての冒頭の挨拶とします。

第22回 都市交 宿泊労働講座＆解散大会

～東日本大震災の今を知る～

・・・青年女性委員会を解散・・・

二〇一三年四月十九日（金）、宮城県自治労会館において全国から約七十名の青年女性委員メンバーが集結し、第二十二回宿泊労働講座が開催されました。冒頭、主催者を代表して藤波青年女性委員長代行（横浜）が「今回の宿泊労働講座のテーマは、震災を語り継ぐということでこの仙台の地で開催する事になりました。この二日間で感じたこと、学んだことをそれぞれの職場で伝えていただきたいと思います。」と挨拶に立ちました。次に都市交本部を代表し、栗原書記次長から「都市交は五月に解散し自治労と統合しますが、統合後も各都道府県本部の組織の中で、今以上に活発な活動の展開を期待しています。」と激励の挨拶を頂きました。宿泊労働講座のはじめは、講師に鈴木仙台市交通労働組合執行委員長をお招きし、「東日本大震災時の仙台市交通労働組合の対応と震災から学んだこと」という内容で講演をいただきました。「震災当日は何が起こったのか理解できず、その中で公務員労働者として何が出来るのかということを考え当局と組合員に話をしていました。組合員も被災者であり職務をお願いする辛さもありましたが、そこは我々が公務員労働者であるという原点に帰り、できる限りの事をしてきました。その結果、市民の皆様から得た感謝の声は本当にありがたかったです。最後に震災はいつどこで起こるかわかりませんが、本当に市民の皆様が困っている時に助ける事が出来るのは我々だと思う。その時の準備はしっかりとしておく必要はあると思います。」と述べられ、講演は終了しました。次に、「東日本大震災時における首都圏の対応」という内容で関東地本より報告を受けました。震災当日は駅に帰宅困難者が多数押しかけ、私鉄各線は早々に運休を発表、しかし、公営交通はいち早く運行再開、終夜運転の決定と、公営の役割を十分に発揮できたのではないかと思う。一方、現場の組合員の意見をまとめると、情報が伝わってこない中での対応は凄く不安だった、一人より複数の人間で対応したほうがスムーズに案内出来た等、整理していかなければいけない課題もたくさん見えました、と現場の声を中心に報告していただきました。

藤波青年女性委員長代行

栗原　勝 書記次長

鈴木利春 仙台市交委員長

二日目は被災地の現地視察と講話が開催されました。まず観光バスに乗車後、津波の被害を受けた沿岸部をバスの車窓から確認し、視察場所の野蒜駅に到着しました。野蒜駅は、宮城県東松島市野蒜字北余景にある東日本旅客鉄道（ＪＲ東日本）仙石線の駅であり、震災当時津波によって大きな被害を受け、以降は当該線区とともに無期限での営業停止となっています。現在は、松島海岸駅と矢本駅を結ぶ代行バスが地域の足となっています。震災前は住宅地であったそうですが、現在は何も残っていません。唯一残った建物が、野蒜駅のホームです。その後、門脇小学校に立ち寄り五階建ての小学校高さ十六メートルの建物を呑み込んだ津波の怖さを改めて感じました。また、そこは尊い命が多く失われた場所であることから、献花台が設置されており、我々以外にもたくさんの方が献花されていました。その後、石巻市総合体育館に移動し「石巻の現場から」という内容で、ＮＰＯ法人移動支援Ｒｅｒａ代表村島弘子さんを講師にお招きし講演いただきました。ボランティア活動の中で一番感じたことは、やってあげているサービスは相手には伝わらないということ、やはり相手の立場や気持ちになって接することが一番大事であると言われていました。この言葉が一番印象に残りました。最後に二日間のまとめ集会を行い、各単組で意見を出し合いました。二十一日（日）の最終日は、宮城県自治労会館にて都市交青年女性委員会解散大会が開催されました。冒頭、司会者の安田幹事（京都）から「この解散大会で都市交青年女性委員会最後の活動になります。歴史に残る大会となりますようご協力お願いします。」と挨拶があり開会しました。主催者を代表し藤波女性委員長代行（横浜）が「都市交青年女性委員会最後の大会ですので、皆様の活発な討議をお願いいたします。」と挨拶の後、都市交本部を代表して高木中央執行委員長が、「本日で青年女性委員会は解散しますが、今後も積極的な組合活動を通じ、政治に関心を持ってもらいたい。組合活動の利点は自分たちの声を上げて何かを作っていく、その集合体が労働組合という組織だと思う。今後も各単組での活動に期待しています。」と激励の挨拶をいただきました。次に来賓として、佐々木伸自治労青年部・部長から「今まで都市交運動の中で経験された力を自治労の中で発揮していただきたい。共に活発な運動を展開していきましょう。」と、歓迎の言葉をいただき議題に入りました。二〇一二年度の活動報告を神原事務局長（大阪）から行い、その後、各地本の報告も行い満場一致で承認されました。次に、第1号議案として自治労と統合並びに都市交青年女性委員会の解散について議論がされました。質疑では、三浦代議員（北九州）から、「自治労との統合後、各地本の機能の中でどれぐらい活動を展開出来るのか」と質問があり「皆さんがまずは自治労の各都道府県本部で活発な活動を展開することを基本とし、公営交通の仲間との交流が持てたらいいと思います。」と答弁されました。その後採決に移り、賛成多数で可決され、最後に藤波委員長代行（横浜）の発声で「団結ガンバロウ」を三唱して大会は終了いたしました。

解散大会の司会を務めた安田幹事

髙木敏雄 中央執行委員長

自治労本部・青年部長 佐々木　伸氏

講義に耳を傾ける参加者

～団結がんばろう～

青年女性委員長　安田　稔

野蒜駅

・・・門脇小学校・・・

献花台

NPO法人移動支援Rera代表　村島弘子氏

まとめ集会で発表する木村委員

・・・参加者感想・・・

震災後はじめて東北地方に行きました。復興が遅れていると報道での知識はありましたが、想像をはるかに超える現実が待っていました。一日目に仙台市交通労働組合鈴木執行委員長に「仙台市の震災直後の交通機関の様子」について講演いただきました。市内はすべて停電し、ＪＲ線は運休を余儀なくされ帰宅困難者が後をたたなかったとの事でした。しかし、信号機が作動しないにもかかわらず市バスが一番に走り出したという事実をお伺いしたことが印象に残りました。何かあった時にこその公営交通だと改めて思いました。二日目は石巻市沿岸地域の視察をしましたが、ＪＲ線はまだ復旧しておらず駅前の住宅街の面影は全くない道を復興作業のトラックだけが行き交っている状況でした。多くの犠牲者を出した石巻市立門脇小学校を視察した際も、校舎をすべて呑み込んだ大津波の爪跡が未だ当時のまま残されていました。人間は自然の猛威に対して小さく弱く何の力もないことを思い知らされました。被災者の方々の新しい生活が一日も早く復興されることを願わずにはいられませんでした。

九条支部　橋本　拓也

二十二回宿泊労働講座及び解散大会に参加させて頂きました。初日は自治労会館宮城において、仙台市交通労組の鈴木執行委員長より「東日本大震災時の組合の対応と学んだこと」と題してご講演頂きました。震災時は世界が二つに割れる程の揺れで、道路が割れる瞬間を目の当たりにされたそうです。職員一丸となり、復旧作業にあたる中で、組合員の方から勤務に対して不満の声も出始めた時期があったそうですが、「組合への文句は後で全て聞くから、今は出来る限りのことをやってください！」と説明されたそうです。また、ある運行管理者の方は自宅が津波で押し流れている映像を前に「あー。もぉ助からねぇな…。」と、言いながら震災発生から八日目の朝まで泊まり込みで職務に当たられたそうです。同じ公務員労働者として持たなければならない使命感を再認識する機会になりました。その後、藤波委員長代行から「東日本大震災時における首都圏の対応」の報告を受けました。私も日々の乗務中いざ大地震が起こった場合、お客様にどこまで冷静に対応し接遇できるのか考えさせられました。二日目は、津波被害を受けた沿岸部の東松島市の野蒜地区と門脇小学校を視察後、石巻市総合体育館にて移動支援Ｒｅｒａ代表の村島さんより「石巻の現場から」と題して、ご講話頂きました。災害が起きた時、まず大切なものは命。必要なものは情報の共有で、大切なことは定義づけされた人を支援することでなく、助けを必要としている人を助けるということ。災害時に何ができるのか決めるのは自分自身である、と学ばせて頂きました。最終日の解散大会では高木中央執行委員長より、「公営交通の存続のために共に職場を維持発展させていこう。公務員バッシングに負けないように笑顔でサービス向上に努めましょう」と激励を頂きました。六月に都市交は自治労と組織統合されますが、今後も活発に意見を出し合い、自治労運動をリードしていく組織でありたいと思います。ありがとうございました。

烏丸支部　木村　晃輔

忘れもしません。二〇一一年三月十一日（金）十四時四十六分に発生した「東日本大震災」。その時、私は仕事中でした。仕事も終わり、休憩室に入ると、テレビの前にたくさんの人だかりが出来ており、見てみると…まるで映画のワンシーンのような映像が流れていました。津波から逃げる車…流される家屋…その時はじめて津波の恐ろしさを知りました。でもその時は、正直、実感というものは伝わって来ませんでした。しかし今回、被災地を目の当たりにすることによって再び恐怖心が蘇りました。津波で大きな被害を受けた野蒜駅、死者一〇〇〇人以上出した東松島市、津波と火災で壊滅的な打撃を受けた石巻市の門脇小学校…人間の無力さを痛感しました。でもその無力が日本中の協力で、すごい力となり復興に向けて少しずつですが前進しています。残念ながら震災は避けて通れない相手です。公営交通で働く自分たちの使命をもう一度再確認し、いざという時に最前線で全員が対応できるように、「知識の引き出し」を作っておくことが大事になると思いました。

烏丸支部　澤野　真也